



流木でベンチを製作

垂水市漁協青年部のみなさん



垂水市漁協青年部（米田竜一部長）のみなさんが、台風14号により海岸に流れ出た流木を利用してベンチを製作し、10月27日、市にベンチ14脚を寄贈しました。

垂水市漁協青年部では、10月はじめの役員会で「流木を利用して市民の役立つものを作ろう」と製作を決め、仕事の合間こつこつと組み立てました。

寄贈を受けた水迫市長は「立派なベンチで素晴らしいアイデア。災害の教訓を忘れないためにも活用したい」とあいさつしました。

このベンチは、市役所ロビーなど各公共施設に設置されています。

ナイター設備を寄贈

大隅ミート産業（株）社長・小森弘實さん



垂水メジャーボーイズ軟式野球スポーツ少年団（鮫島秀昭監督・部員29名）に、大隅ミート産業（株）社長の小森弘實さんがナイター設備（水銀灯1000W・8基）を寄贈、10月17日、垂水小学校内に設置されました。

小森さんは大の野球好きで、子どもたちがケガなく、笑顔で頑張っている姿を見たいと寄贈の経緯を話してくれました。

キャプテンの鮫島大輝くんは「これで少しでも長く練習できるのでとてもうれしいです。いろいろな大会で結果を出して、恩返ししたいです」と喜んでいました。

（写真：小森さんを中心に記念撮影）

錦江湾クリーンアップ作戦・秋

終原小学校児童は46名参加



10月22日、錦江湾クリーンアップ作戦・秋が、終原小学校下の海岸で行われ、終原小学校の児童、育成会の代表、教職員など76名が参加して行われました。

今回の作戦は、海岸に打ち上げられたゴミの種類や量を調査するもので、海岸約200mの砂浜の間を調査票の細かい分類に従い、丁寧に調査を行っていました。

調査の結果、ガラスや陶器の破片が一番多く、また、食品の包装・容器類など日常生活からのゴミも目立っていました。

清掃・調査を終えた6年生の児童は「色々なゴミがなぜたくさんあるのか」「今後の学習に生かしたい」などと感想を話していました。

全国硬筆コンクールで最高賞

垂水小学校6年 永田 咲さん



■毎日新聞東京本社での表彰式
〔写真左から、川畑さん、越野さん、永田さん〕

第21回全国硬筆コンクールで、永田咲さん（垂水小6年・潮彩町）が最高賞の文部科学大臣奨励賞を受賞しました。

このコンクールには、幼児から大人まで38,348点の応募があり、受賞の知らせを聞いた永田さんは「夢のようで感動。先生の指導を守り、心を込めて丁寧に書いた納得した1枚でした」と笑顔を見せてくれました。

指導した越野聖子さんは「最後まであきらめない性格が出品した最後の1枚を書き上げ、この賞に結びついたと思います」と話していました。

「きれいな字を書くことが好き。次は行書を勉強し、もっと練習して、またコンクールで良い賞を取りたい」と次の目標を話す永田さんでした。

なお、同コンクールでは、永田さんのほか垂水市内から毎日硬筆大賞に越野聖子さん（田神）が、書写検硬筆準大賞に川畑瑠花さん（垂水小3年・田神）が入賞し、10月23日に毎日新聞東京本社で行われた表彰式に出席しました。



■文部科学大臣奨励賞
永田 咲さんの作品



■書写検硬筆準大賞
川畑 瑠花さんの作品